

温故知新 ～土木技術の今と昔～ いろは呑龍トンネルと琵琶湖疏水

市民幹事会

<概要>

土木学会関西支部市民幹事会では、毎年一般市民を対象とした見学会を実施しています。今年、「温故知新～土木技術の今と昔～」をテーマに見学会を実施しました。実施概要は以下のとおりです。

- ・日程 平成11年10月23日(土) 8:45～17:00
- ・参加人数 70名
- ・見学先 いろは呑龍トンネル
(桂川右岸流域下水道幹線管渠工事)
田村喜子先生講演会
「琵琶湖疏水の話」
琵琶湖疏水記念館・田辺朔郎像・
インクラインなど琵琶湖疏水周辺

<当日の行程>

いろは呑龍トンネル

いろは呑龍トンネルは、府道中山稻荷線の下に建設されている、全長935m、直径8mの雨水を貯留するためのトンネルです。ここでは、工事概要説明(ビデオ鑑賞)の後、2班に分かれて、発進立坑・シールドトンネル、泥水処理プラント、制御室を順に見学しました。現場事務所の方がとてもわかりやすく親切に案内してくださったので、参加者からは時間ぎりぎりまで様々な質問が飛び交いました。また現場は非常に安全・清潔で、参加者は非常に驚いていました。



いろは呑龍トンネル坑内で工事の説明を聞く参加者

田村喜子先生講演会「琵琶湖疏水の話」

次に会場を京都大学に移し、「京都インクライン物語」の著者である田村喜子先生による講演会を行いました。約1時間にわたって、琵琶

湖疏水の概要、建設に携わった技師田辺朔郎の苦勞話、土木事業における疏水の意義や今後の土木事業への希望などについて、熱く講演して下さいました。温故知新というテーマにふさわしい内容で、非常に興味深く聴講することができました。また京都大学内の疏水資料室も見学させていただきました。

琵琶湖疏水記念館・田辺朔郎像・インクラインなど琵琶湖疏水周辺

その後、琵琶湖疏水記念館を見学しました。ここでは疏水工事の設計図面や工事記録などの貴重な資料が展示しており、京都の近代化に琵琶湖疏水が貢献したことを知ることができました。そして田村先生同行のもと、田辺朔郎像、インクライン、水路閣を見学しました。ちょうど秋の観光シーズンで、周辺は大変な混雑でしたが、各ポイントで田村先生に解説していただき、とても有意義な一日を過ごすことができました。



蹴上インクラインの散策

<おわりに>

天候にも恵まれ、時間の遅れや事故もなく、見学会を無事に終えることができました。参加者からも、土木技術の進歩に感心した、土木を身近に感じたなどの意見をいただき、土木事業の重要性を理解していただく良い機会になったと思います。

最後に、見学を受け入れて下さった京都府流域下水道建設事務所、西松・鴻池・フジタ・金下共同企業体(以上いろは呑龍トンネル)、京都市水道局(琵琶湖疏水記念館)、講演会会場・資料室を提供して下さいました京都大学、講演を引き受けて下さった田村喜子先生に感謝の意を表したいと思います。